

14.5

1029

東亞諸民族調查事業報告

帝國學士院東亞諸民族調查委員會編
昭和十五年度



0054968001

0054968-001

14.5-1029

東亞諸民族調查事業報告

帝國學士院東亞諸民族調查委員會・著

帝國學士院東亞諸民族調查委員會

昭和15-17年版

昭和18

AIE

昭和十五年夏

東亞諸民族調查事業報告

帝國學士院

東亞諸民族調查委員會

一、本事業の計畫

發行所寄贈本

輓近國運の進展に伴ひ、本邦周圍民族の政治的經濟的研究と併行してその民族的生活文化的性格の研究の昨今殊に緊急事に屬するや論を俟たず。而して滿蒙北支方面に關しては既に諸種の研究機關も存し、成果を擧げ得たるも、之に劣らざる重要性を認めらるゝ南方諸民族文化の研究は、少からず立派に居るのみならず、歐米諸學者の研究水準に比し、遙かに及ばざるの憾あるは、
は勿論、國策上よりも甚だ遺憾とする所なり。

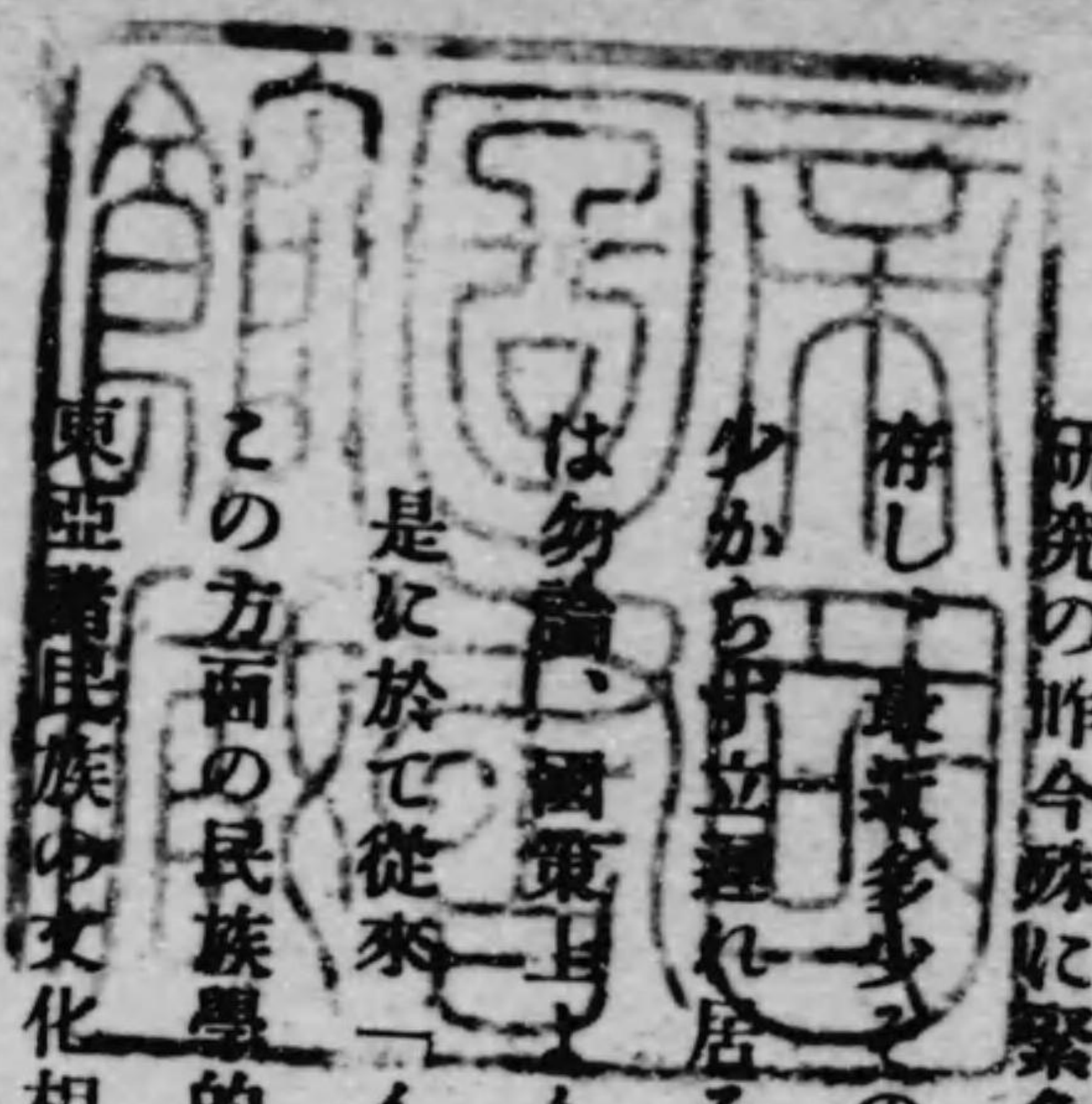
是に於て從來「インドネシア慣習法辭典」編纂により萬國學士院聯合會に國際的協力を爲し、多年

この方面の民族學的研究を行はしめたる本院に於ては、更に一般南方諸民族文化の調査研究を加へ、

東亞諸民族の文化相關の一層廣汎なる視角より、既存の諸研究機關と相協力提携して東亞諸民族の綜合的なる民族學的調査研究を達成せんと欲し、豫て豫算を請求中の所、昭和十五年一月、向ふ三ヶ年

大畧年三萬圓餘の豫算通過を見たり。

而して當初の計畫によれば、殊に、台灣を中心とするインドネシア方面、南支を中心とする東南アジア方面、ミクロネシアを中心とする太平洋諸島方面を以て調査區域とし、これ等諸地方の住民に就



二
き、人種、社會組織、生産形式、工藝技術、言語、民話、音楽、傳承、慣習乃至習俗、信仰及び儀禮、智能及び知識等の諸項目に互つて、報告資料の蒐集、その他の文献による研究、現地調査、標本資料の蒐集、報告書の刊行等を行ひ、以て學術の興隆に寄與すると共に、國運の進展に資するあらん事を期せり。尤も調査區域、項目、方法等に就ては、其後更に修正發展を見たること次に述ぶるが如し。

二、委員會の設立

豫算通過の後、院内打合せ會を開くこととなり、昭和十五年二月十二日長岡院長より、姉崎、市村、山田、瀧、新村、羽田、池内、各會員の集會を求めて協議したる結果、本院に東亞諸民族調査委員會を設け、調査員其他の實務者を囑託して、大体次の如き順序に於て本調査を実施することに決定せり。

- 一、高砂族に關する資料の整理編輯
- 二、東亞諸民族の分布、その他の基本調査を行ひ、關係研究所又は調査機關と連絡協力すること
- 三、各部の専門研究者を聘し、報告研究會を定期的に開催すること

よつて三月例會の第一部會に於て部長より準備委員を指名、全月二十七日準備委員會を開いて、小金井、白鳥、松本、姉崎、市村、山田、瀧、新村、足立、羽田、池内各委員より成る調査委員會を成

立せしむることとし、出席委員に於て山田委員を委員長に互選せり

かくて四月以降概ね毎月一回委員會を開催し、研究の範圍、項目、方法等を討議し來れるも、尙具體的に實施方法を協議して事業の進捗を計るため、六月十二日第三回委員會に於て、姉崎、池内、新村、羽田の各會員に山田委員長を加へて特別委員會（後に常任委員會と改稱）を組織し、普通委員會と共に畧々毎月會合を重ねて、本年度中既にいづれも各七回の會合を見たり。

而して遂次協議進行の結果、本調査事業の對象として、差當り日本民族を除いて、北はシベリアより南はインドネシアに及び、東はミクロネシアの東端より西は新疆西藏に互る東亞の諸民族を、體質人類學的、言語學的、社會的經濟的、及び宗教土俗藝術等の四部門より觀察しつゝ、全体の系統、移動分布等總括的研究に重きを置くこととし、その方法としては親しく現地を赴いて調査を進むべきことと論を俟たずと雖ども、順序として先づ從來の調査研究の大體の成果を文献に基いて整理按配し、以て本事業の爲めの豫備的概觀たらしむることとなれり。

三、調査室の開設と人員の整備

敍上の方針に基き、昭和十五年七月、前記委員會並に常任委員會の下に宇野圓空博士を主任とせる、

東亞諸民族調査室を本院内に設置、九月より指導囑託として體質に関する事項を東京帝國大學人類學教室長谷部教授に、言語に関する事項を同文學部言語學研究室小倉教授に、宗教に関する事項を同宗教學研究室石橋教授に、それ〴〵依頼してその協力を乞ふこととせり。一方調査室には今日に至る迄に石田英一郎、野村正良、及川宏三名を調査員として事業の實務に専任せしめ、なほ調査囑託として、人類學教室須田講師、宗教學研究室小口副手に各専門的部門を擔當せしめ、其他事務關係要員を整へ、圖書及び器具の備付を進めて調査事業を進行し來れり。

四、事業内容

第一年度約半々年餘の事業は、従つて専ら上記の豫備的概観のためのものにして、その主たる内容は次の如し。

(1) 東亞諸民族系統區分表並に調査項目表の作成

右は主任、調査員、調査囑託の連絡打合せ會及び常任委員會、委員會に於て再三検討の結果、一應本事業のプログラムとして作成せるものにして、前者は本調査範圍の諸民族を大約百十餘の單位に概括區分し、後者は之を概括調査項目と個別的調査項目の二つに分ち、

それ〴〵左記の各項目に就きて、調査研究の細目を表示せるものなり。

(一) 概括調査項目

- 一、民族の形成に於ける人種・言語・文化・地域の相互關係
- 二、東亞諸民族の分類移動系統に関する從來の諸研究の整理

(二) 個別的調査項目

- 一、住地・人口
- 二、人類學的特徵
- 三、經濟
- 四、食物・飲料・其他の嗜好品
- 五、器具・技術
- 六、住居其他の建造物
- 七、服飾
- 八、交通
- 九、社會形態
- 一〇、法的秩序

- 一一、争闘
- 一二、生死冠婚等に關する習俗・行事
- 一三、信仰及び儀禮
- 一四、藝術・娛樂
- 一五、文學
- 一六、言語
- 一七、文字
- 一八、知識・智能
- 一九、各個民族の統一的性格

(2) 分布區域記入東亞諸民族名カードの作成整理

須田囑託の手により、東大人類學教室に於て近く完成の豫定なり。カード數約二千。

(3) 東亞諸民族關係文獻カードの作成整理

本院調査室に於ては先づ(一)帝國圖書館及び(二)東洋文庫の文獻目錄に就き、東大人類學教室に於ては(三)同教室所藏及び(四)雜誌 *Ethnologischer Anzeiger* 所掲の文獻目錄に就き、それ〴〵カードを作成中にして、(一)、(四)は既に畧々完了し、(二)は大

畧その半數の作成を終る。その總數約八千なり。なほ之に他の諸文庫の文獻、諸雜誌の論文等を追加し、前者と合せて著者別、地域別、及び事項別の三種類に分つて配列せる文獻カードを整備せんとするものなり。

(4) 東亞諸民族一覽並に分布圖の作成

約四百に及ぶ民族名を主項目として各項目に就き、その住地、人口、身性、言語、生業、家屋、服飾、器物、禮教、社會、其他の特質を簡明に記入せる小冊子の編輯に着手、年度内にその半數の起稿を了せり。又これに附屬すべき民族分布圖については、その資料地圖二十數枚の筆寫を終り、その集成を急ぎつゝあり。

五、報告會及び研究會

以上調査事務の外、本院調査室に於ては、或は外部より各種の専門家を聘して、その研究報告を聴き、或は内部的に調査員、調査囑託間の研究會を催して各自の研鑽を期し、以て本調査事業の學的基礎を固むる所あらんとす。

(1) 専門家の報告會と同記録の印刷

各民族若くは特殊調査事項に關し、外部よりそれ〴〵の専門家を聘して催す報告會にし

て、本年度に開催せるもの左の如し。

昭和十五年十二月十六日

比律賓の民族文化の系統

東亞研究所 棚瀬襄爾氏

フィリッピン諸民族をその人種・文化層により、ネグリト、インドネシアン、マライヤンの三系統に分ち、各の文化的特質を挙げられたり。

昭和十六年一月十三日

現代の民族學と民族調査

ウィーン大學客員教授 岡 正雄氏

進化主義より文化史學派、構造學派に至る近世民族學說史を大觀し、現在學としての現代民族學の課題と方法を論じて、民族調査事業に於ける實地的現地旅行の意義を強調する。

昭和十六年二月十三日

東亞遊牧民の一典型としての蒙古人

東方文化學院 江上波夫氏

江上氏の自ら再三踏査せる内蒙古人の諸文化要素の一々に就いて自己の見聞を述べ、殊に蒙古遊牧民の特質を内陸アジアにつらなる一帯の遊牧文化の一環として比較論述せられたり。

(2)

右諸報告の記録は、調査室に於て小冊子に印刷せしめ、關係各方面に配布するものとす。報告會記録第一號は既に作成済なり。

調査室の研究會

各調査員及び調査囑託は主任の下に毎週一回連絡打合せ會を開き、調査事務の進捗をはかる一方、又根本的なる理論上の問題に關し、知識の交換、共同の討論のため、随時調査室内に研究會を催し居れり。本年度内に開催せる研究會の題目と研究發表者左の如し。

昭和十五年十一月十八日

Eickstedt: Rassenkunde und Rassengeschichte der Menschheit に就きて

須田 囑託

アイクシュテットの名著「人種學と人種史」の中、主として人種分類に關する所説を紹介、更に人類起源論に關する質疑應答あり。

昭和十六年二月三日

現代民族學の目的と方法

石田 囑託

近世民族學の史的發展を論じ、併せて文化圖説、機能乃至構造學說等の綜合統一としての今後の民族學の任務に及ぶ。

昭和十六年三月十四日

民族の概念に就て

民族の定義に就いての東西諸學者の所説を紹介して、之を比較検討す。特に Schmidt, Vierkandt の民族觀、民族の共同意識の問題を取扱ふ。

小口 囑託

帝國學士院東亞諸民族調査委員會委員及び係員一覽氏名

- | | |
|------|-------|
| 委員 | 山田三良 |
| 委員長 | 小金井良精 |
| 委員 | 白鳥倉吉 |
| 同 | 松本亦太郎 |
| 同 | 姉崎正治 |
| 同 | 市村瓊次郎 |
| 同 | 瀧精一 |
| 同 | 新村出 |
| 同 | 足立文太郎 |
| 同 | 羽田亨 |
| 同 | 池内宏 |
| 指導囑託 | 長谷部言人 |
| 同 | 小倉進平 |

14.5
1029

製本控 何第號
 14.5 冊 1029 號 年 月 日
 書名 東亞諸民族調查予黨報告 昭和15年夏
 著者 帝國學院東亞諸民族調查委員會編
 受入 年 月 日
 備考

同 調查主任
 同 調查員
 同 調查囑託
 同 同 同

石橋智信
 宇野圓空
 石田英一郎
 野村正良
 及川宏
 須田昭義
 小口偉一
 藤田一一
 秋山春水
 (以上)

14.5
1029



